

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習Ⅱ-1		必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
山鹿 隆義 他	C307	t.yamaga	月・火曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	作業療法演習Ⅱ-1 では、前年度までに習得した専門知識の定着と知識の体系的理解ができ、それを模擬事例に生かし、作業療法における評価、統合と解釈、焦点化までの習熟を目的とする。これにより、作業療法治療の構造をより理解することが可能になる。授業は原則、面接授業で実施する。				
学習上の助言	本科目では2年次までに学習した臨床医学系の知識を復習し、体系的に理解しておくこと。実際場面を想定し、自分で考え、行動できるようにしておくこと。不明なことは積極的に教員に質問をおこない、その都度明確していくことが必要である。				
教科書	OT 評価ポケット手帳 編:濱口豊太 ヒューマン・プレス ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版— 障害者福祉研究会編集 中央法規 【2冊指定】				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	身体障害領域に関連する疾患について、体系的に理解し、説明できる。			OT (2)、 OT (3)	
②	精神障害領域に関連する疾患について、体系的に理解し、説明できる。			OT (2)、 OT (3)	
③	身体・精神障害の事例に関して評価計画が立案できる。			OT (2)、 OT (3)	
④	身体・精神障害の事例に関して情報・評価が吟味できる。			OT (2)、 OT (3)	
⑤	身体・精神障害の事例に関して、ICF をもちいて統合と解釈・焦点化ができる。			OT (2)、 OT (3)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 今後の学習の仕方 プレースメントテスト	講義・演習 小テスト	事後：前期の学習計画の立案	1	
2	身体障害領域に関連する疾患と ICF について I	講義・演習	事前：神経内科・高次脳機能学の復習 事後：学習資料の復習	2	
3	身体障害領域に関連する疾患と ICF について II	講義・演習	事前：整形外科・内科学の復習 事後：学習資料の復習	2	
4	精神障害領域に関連する疾患と ICF について	講義・演習	事前：精神疾患の復習 事後：学習資料の復習	2	
5	文献検索の仕方 対象者の評価計画について 評価統合の解釈と焦点化について	講義・演習	事前：作業療法評価学の復習 事後：学習資料の復習	2	
6	事例基盤型学習 (身体)：疾患の理解と評価計画の立案	各教員について演習	事前：事例の評価計画の立案 事後：情報と評価結果の吟味	2	
7	事例基盤型学習 (身体)：情報・評価結果の吟味と解釈 1	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2	
8	事例基盤型学習 (身体)：情報・評価結果の吟味と解釈 2	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2	
9	事例基盤型学習 (身体)：ICF による統合と解釈	各教員について演習	事前：ICF の分類と図化 事後：ICF の解釈	2	
10	事例基盤型学習 (身体)：生活障害の焦点化	各教員について演習	事前：生活障害の焦点化 事後：レポート完成	3	
11	事例基盤型学習 (精神)：疾患の理解と評価計画の立案	各教員について演習	事前：事例の評価計画の立案 事後：情報と評価結果の吟味	2	
12	事例基盤型学習 (精神)：情報・評価結果の吟味と解釈 1	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2	
13	事例基盤型学習 (精神)：情報・評価結果の吟味と解釈 2	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2	
14	事例基盤型学習 (精神)：ICF による統合と解釈	各教員について演習	事前：ICF の分類と図化 事後：ICF の解釈	2	
15	事例基盤型学習 (精神)：生活障害の焦点化	各教員について演習	事前：生活障害の焦点化 事後：レポート完成	3	
試	定期試験				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		50	50	0	0	0	
総合力指標	知識・技術力	50	10	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	2年生までに学習した臨床医学の知識の習熟度を試験形式で問う。				試験後に実施
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	身体障害と精神障害の模擬事例について、作業療法評価の過程をレポートにまとめる。レポートをまとめる過程やレポートの内容をルーブリックで評価し、知的スキルの習熟度等について問う。				レポート提出後に実施する
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎山鹿隆義、小沢健一、中西康祐、榎田哲弥、浅野克俊、池谷政直、海保享代</p> <p>授業形態：この科目は登校による面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。</p> <p>また、演習のグループはプレースメントテストの結果を踏まえて、授業効果が最適化するようにグループ編成を行う。</p> <p>履修に関して：この科目の単位修得が作業療法演習Ⅱ-2の履修要件である。</p> <p>教員の実務経験：本科目の担当教員は5年以上の臨床業務経験がある。</p> <p>実践的授業の内容：配布資料と併せて臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。このシラバスは今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって、シラバスの変更の可能性がある。</p>							